

街路に面した敷地境界における景観構成要素についての研究

—駐車場の外構における自然素材と景観色の活用可能性に着目して—

環境デザイン学科 山川研究室 瀬古祥子

1. 背景と目的

垣、柵、塀など街路と敷地を仕切る境界部分（以下、外構）は、街並み景観の多くを占める要素のひとつである。このため外構は、周辺に調和した色彩など景観の向上に資する意匠とすることが望まれている。

外構をもつ空間は多様に存在するが、景観への配慮が必要とされているもののひとつに、駐車場がある。

学術研究において、船橋¹⁾では宅地変容に伴う景観評価によって、空地や駐車場への修景が必要であるという課題を抽出した。行政的には京都市において、道路に面して駐車場等の空地を設ける場合は、周囲の景観と調和した外構や生垣等を設置することで街並みの連続性に配慮するという基準が市街地全域に適用されている²⁾。

一方、駐車場の外構の改善について検討する際には駐車場所有者をはじめとした駐車場の外構に関わる人々の意識を踏まえることが大切である。黒川³⁾は戸建て住宅の外構所有者を対象とした調査を行っているが、前述のように修景上の課題となっている駐車場の外構については関係者の意識が明らかにされていない。

そこで本研究では、駐車場の所有者や駐車場運営管理会社、エクステリアメーカーなどの関係者の自然素材や景観色の駐車場外構に関する意識を明らかにした上で、これを踏まえて普及に向けた提案を行うことを目的とする。



写真 1.2 自然素材を活用した駐車・駐輪場外構（松明垣等）

2. 研究方法

駐車場所有者（以下、所有者）や、駐車場の外構を提案する駐車場運営管理会社、外構資材を提供するエクステリアメーカーなどを対象に、外構に関する現状や課題などを調査した。調査は、電子メールまたは電話、郵送、直接訪問のいずれかの方法で行った。本研究では、主に店舗や社寺の来客・参拝者用駐車場と月極駐車場について調査した。

3. 自然素材・景観色の使用状況と関係者の意識

3.1. 駐車場所有者の意識

自然素材の外構については、店舗や社寺の来客・参拝

者用駐車場において板塀などを活用している所有者5名の調査を行った。その結果、自然素材を選んだ理由としては、店舗や社寺境内との統一感、周辺の景観へ配慮、そして京都らしい景観をつくりやすいことを挙げていた。

景観色の外構については、店舗や社寺の来客・参拝者用駐車場においてダークブラウン色などの金属製フェンスを使用している所有者2名に対して調査を行った。その結果、景観色を選んだ理由として、奇抜・派手な色を避けたこと、自然と調和する色としたことが挙げられた。

景観色以外の外構については、店舗の来客用駐車場において景観色以外の金属製フェンスを活用している所有者1名の調査を行った。その結果、自然素材の外構は、望ましいとしつつも耐久性や維持管理についての懸念が表明された。現在の外構を交換する際の色についても尋ねたところ、黒か茶色が挙げられた。賑やかな色を避けたほうが良いという理由であった。

なお今回、所有者への調査において、店舗や社寺の駐車場以外の月極駐車場等の土地所有者に直接調査を行うことが出来なかった。しかし、月極駐車場やコインパーキングの駐車場の所有者は、外構の色彩や意匠について特にこだわりのない、無関心層の方が多いということも駐車場運営管理会社2社ともに指摘していた。

3.2. 駐車場運営管理会社の実態・意識

駐車場運営管理会社2社を対象として調査を行った。駐車場運営管理会社は、駐車場としての土地利用整備の依頼を受けた際に、主に金属製外構のカタログを用いて土地所有者と外構の相談を行う。最も一般的に採用される色は白と緑であった。景観規制の強い地区以外では自然素材や景観色の提案がなされていなかったが、主流外構と価格が同程度であれば、自然素材や景観色の提案は可能であるということだった。

3.3. エクステリアメーカーのカタログの実態・意識

景観色の外構については、金属製の外構を扱うエクステリアメーカー2社の調査を行った。駐車場の外構としての主流製品が2種類ある。このなかで最も注文の多い色彩が景観色であるメッシュフェンスは、景観色（ダークブラウン等）がカタログの施工事例写真に用いられている、在庫色のなかで景観色の割合が比較的多い、優先的に記載されているという傾向がみられた。一方、最も注文の多い色彩が景観色ではない（グリーン等）ネットフェンスは、景観色ではない製品がカタログ内で優先的に記載されているという傾向がみられた。なおいずれも

景観色とその他の在庫色に価格の差はなかった。

自然素材の外構については、主に竹垣を扱う企業2社に調査を行った。カタログでは駐車場での施工事例の紹介写真などの掲載は見あたらなかった。

人工竹垣を主に扱うエクステリアメーカーからは、商品価格と施工費、維持管理費について、および、和風空間の減少が課題として挙げられた。

天然竹垣を主に扱う竹材店からは、国産竹材自体の生産量の減少という課題と、一方、維持管理については竹垣は比較的耐用年数が長く部分的な修繕が可能であること、また種類によっては、相対的に費用の負担が少ない竹垣である四つ目垣**が施工できることが挙げられた。

そこで、四つ目垣と金属製外構の主流製品の価格を比較したところ、維持費を含めた耐用年数内全体としての費用については明らかではないが、四つ目垣はより低価格で設置できることが示された(表1)。

表1 外構の価格比較表

種類	ネットフェンス	メッシュフェンス	四つ目垣
費用(円/m)	H1200	H1200について	H1200について
材料(商品)費	4,260円(+980円)	4,730円	10mの境界部分に
工事(組立)費	1,800円(+260円)	1,800円	3mの出入り口を設け
工事(基礎)費	1,700円	1,700円	た場合竹垣部分7m
運搬費	130円	170円	約5万円
備考	0内、金網ハズレ防止部材		50,000円÷7m
合計	7,890円(9,130円)	8,400円	約7,140円

以上の結果を図1にまとめた。

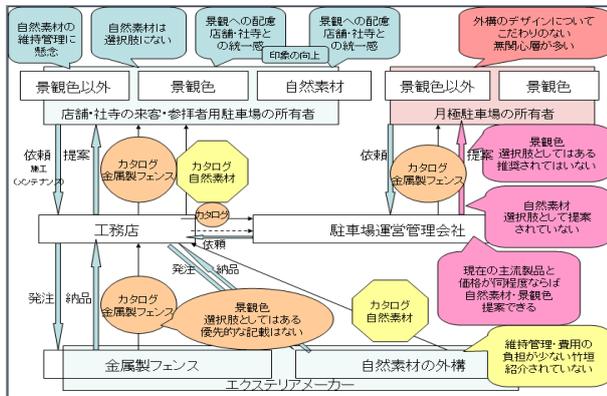


図1 駐車場外構の関係者の意識と現状

4. 関係者の意識についての考察と提案

4.1. 月極駐車場における活用の可能性

月極駐車場の所有者は、駐車場外構の意匠にこだわりがなく、価格を重視するため、自発的に自然素材や景観色の外構に関する情報を探索することはないと思われるが、外構について相談する主体からはたらきかけがあれば、自然素材や景観色を選択する可能性が広がると考えられる。相談する相手である駐車場運営管理会社は現在の主流製品と価格が同程度であれば、提案できている。そこで価格について検討したところ、金属製外構の景観色は現在の主流製品である他の在庫色と同価格であり、自然素材の外構のなかでも四つ目垣という竹垣は主流製品よりも低価格であった。このため、自然素材

と景観色の提案と提供ともに実現可能性があると考えられた(図2)。さらに、ネットフェンスのカタログ内にて景観色の優先的な記載を行うこと、自然素材の外構のカタログで、四つ目垣を駐車場の外構として推奨する記載を行うこと、そしてこれらのカタログを外構の相談時に活用することが有効ではないかと考えた。駐車場運営管理会社からの提案も行いやすく、また所有者にとってもイメージがわかりやすくなると考えられる。

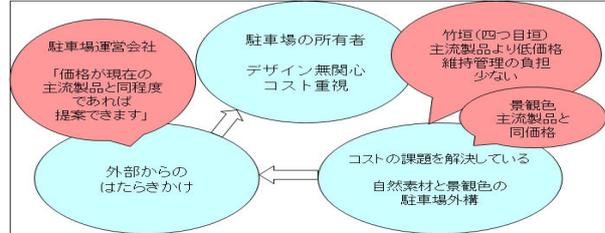


図2 提案と提供の解決可能性

4.2. 店舗などの来客用駐車場における活用の可能性

店舗や社寺の来客用・参拝者用駐車場の所有者は、店舗や社寺自体との調和などの理由から、駐車場という空間へも関心度が比較的高いと考えたが、自然素材について維持管理・費用への懸念をもつ所有者などもみられた。しかし竹垣は比較的維持が容易との話も聞かれた。今回、工務店の調査を行うことができなかったため、提案する主体の意識については明らかではないが、上述のようなカタログがあれば工務店からの提案も行いやすく、所有者にとっても維持管理費用の負担が少ない自然素材や景観色を選択する可能性が広がるのではないかと考える。

5. 結論

本研究では、駐車場外構における自然素材や景観色の活用普及の可能性について検討した。その結果、

- 1)店舗・社寺の駐車場の所有者は、比較的、駐車場外構への関心が高いが、月極駐車場などの所有者は関心が低いこと
- 2)駐車場運営管理会社は、景観規制の強い地区以外では自然素材や景観色の提案をしていないが、価格によっては提案可能であること
- 3)金属製外構では景観色は価格は変わらないが優先的なカタログ記載がされていない主流製品があること、自然素材の外構では維持・費用などの負担が比較的少ない製品があるが、カタログ内に利用例や利用を推奨する文言が掲載されていないこと、などの知見が示され、これを受けた提案を行った。

本研究で提案した内容について、関係者の賛同を得て実践した結果を検討することが今後の課題である。

参考文献および注釈

- (1) 船橋秀揚・赤松健吾・安田丑作・三輪康一・末包伸吾・木山正典 宅地および機能変容に伴う景観規制とその評価に関する研究 神戸市山手住宅地における街路景観の事例調査を通して、その2 日本建築学会大会学術講演集(中国) P.451-452(1999)
 - (2)京都市都市計画局 建築物等のデザイン基準(美観地区 美観形成地区 建造物修景地区) P.4 P.49(2011)
 - (3)黒川威人 街並み景観における塀のデザイン研究2-金沢- 金沢美術工芸大学学報 26 P.31-38 (1982)
- *ダークブラウン・ダークグレー・グレー・ベージュの景観3色。景観に配慮した防錆塗の整備ガイドライン(国土交通省(2004))により推奨されている。
*四つ目垣 竹を縦横に渡し方形のすきまができる竹垣。透風生がある。